

市民と市長の 地域みらい懇談会

【横尾地区】

要望・提案と回答

令和2年2月9日（日）
横尾地区ふれあいセンター

市民と市長の地域みらい懇談会【横尾地区】

要望・提案一覧

令和2年2月9日（日）開催

1～6は当日発表

	要望・提案項目	団体名	担当課	ページ
1	横尾地区急傾斜地崩壊危険区域の 災害対策について	横尾東部自治会	中央総合事務所 地域整備 1 課 地域整備 2 課	1～2
2	横尾中学校の統廃合について	横尾西部自治会 横尾小学校PTA 横尾なづみ自治会	教育委員会 適正配置推進室	3～10
3	自治会の実態について	横尾西部自治会	市民生活部 自治振興課	11～20
4	運転免許証の返納に伴う公共交通 (バス) の増便について	横尾地区民生委員 児童委員協議会	まちづくり部 都市計画課	21～24
5	市営住宅の建て替えについて	横尾さつき自治会	建築部 住宅課	25～26
6	子育て支援について	横尾なづみ自治会	こども部 子育て支援課 こども健康課 中央総合事務所 地域福祉課	27～30

要望・提案項目		団体名	担当課	ページ
7	山の木公園の整備について	横尾なづみ自治会	中央総合事務所 地域整備1課	31
8	部活動の時間について	横尾なづみ自治会	教育委員会 健康教育課	32
9	秋寄公園への遊具の設置について	横尾南部自治会	中央総合事務所 地域整備1課	33~34
10	空き家対策について	老人クラブなづみ会	建築部 建築指導課 住宅課	35~36
11	横尾地区老人デイサービスセンター退去後の計画について	横尾地区ふれあい センター運営委員会	理財部 資産経営室	37

回答票

横尾
地区

【担当部課名】 中央総合事務所
地域整備 1 課、地域整備 2 課

要望内容

【団体名】 横尾東部自治会

【件名】 横尾地区急傾斜地崩壊危険区域の災害対策について

ここ 3～4 年、老木化で木の傾斜が進み危険度（倒木）が増しており、大雨の時は側溝（幅 500 ミリ×深さ 350 ミリ）が溢れる。現地は、長崎大水害時に倒木や土砂崩れで危険区域に指定されている。

一昨年まで、再三、県・市の方へ対応策をお願いし、見には来てくれるが山の持ち主不在で手を付けられない等々で挫折していた。

が、昨年初め、公開入札で落札者が現れ、持ち主と話を進め、県の指導を受け、市の担当者に相談し、対応策を示してもらい安堵した。超多忙のようで進捗が停滞しているため、加速をお願いしたい。

【回答内容】

- 1 可能 2 一部可能 3 不可能 4 調査検討
- 5 斡旋 ⑥ その他（事業申請が可能です）

長崎市の急傾斜地崩壊対策事業は、対策が必要な 1,017 箇所のうち 287 箇所に着手し、着手率は約 28%となっております。

横尾地区急傾斜地崩壊危険区域の災害対策につきましては、長崎県長崎振興局砂防課と現地立会いを行い、県施行の急傾斜地崩壊対策事業の申請が可能という返事を頂いております。また、急傾斜地崩壊対策事業の申請には、所定の同意書の提出が必要となっており、その同意書は、地元で揃えて頂く必要があります。

しかし、新規要望箇所や他の要望箇所における不明者や相続人の調査、同意書の依頼等の作業を順次行っており、当地区の対応が遅れ申し訳ありません。現在、市において同意書の取得に必要な地権者リスト、図面等の作成を行っておりますが、2 月末までには自治会へお渡しすると同時に同意書の取

得についてのご説明を行います。今後は、事業に向けた申請書作成について
地元と長崎市で協力しながら進めて参りたいと考えています。

長崎市の児童生徒数は、昭和 30 年代のピーク時から、小中学校ともに 7 割以上、平成元年度と比較しても約 5 割が減少しています。その一方で、学校数は大きく変わっていないため、1 校あたりの児童生徒数がピーク時の約 4 分の 1 まで減少し、多くの学校で小規模化が進んでいます。

子どもたちは、学校で教科などの知識や技能を習得するだけでなく、集団の中で多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することで自身の考えを深め、協調性を育んでいきます。

また、新しい人間関係を築き、コミュニケーション能力を身に付け、社会の一員として自覚を持って行動できるような教育活動も必要です。

このような中、平成 29 年 2 月に、集団生活の中で活気に満ちた活動ができる学校規模を確保するため、「長崎市立小学校・中学校における規模の適正化と適正配置の基本方針」を策定しました。

平成 29 年 4 月には、市内全域を 16 の地区に分け、優先的に検討する小規模校 47 校を対象とし、地域ごとに「学校の統廃合」や「通学区域の見直し」などの具体的な実施計画（案）を作成しました。

この実施計画（案）をもとに、保護者や地域住民の皆さまとの意見交換を行い、これまで、4 つの学校（尾戸小・川平小、式見中・江平中）の統合を決定したところです。

横尾地区におきましては、横尾中学校を対象とし、「滑石中から分離新設した横尾中を、滑石中に統合する」という計画（案）としています。

平成 29 年度から保護者や地域の皆さまと意見交換を行った結果、平成 30 年 2 月開催の意見交換会において、統廃合に反対のご意見をいただいております。

横尾地区は、自治会や育成協をはじめ、地域の活動が盛んで、地域の皆さまが日ごろから子どもたちを見守り、学校運営にもご支援いただくなど、地域ぐるみで子どもたちを育成されていることは十分に理解しております。

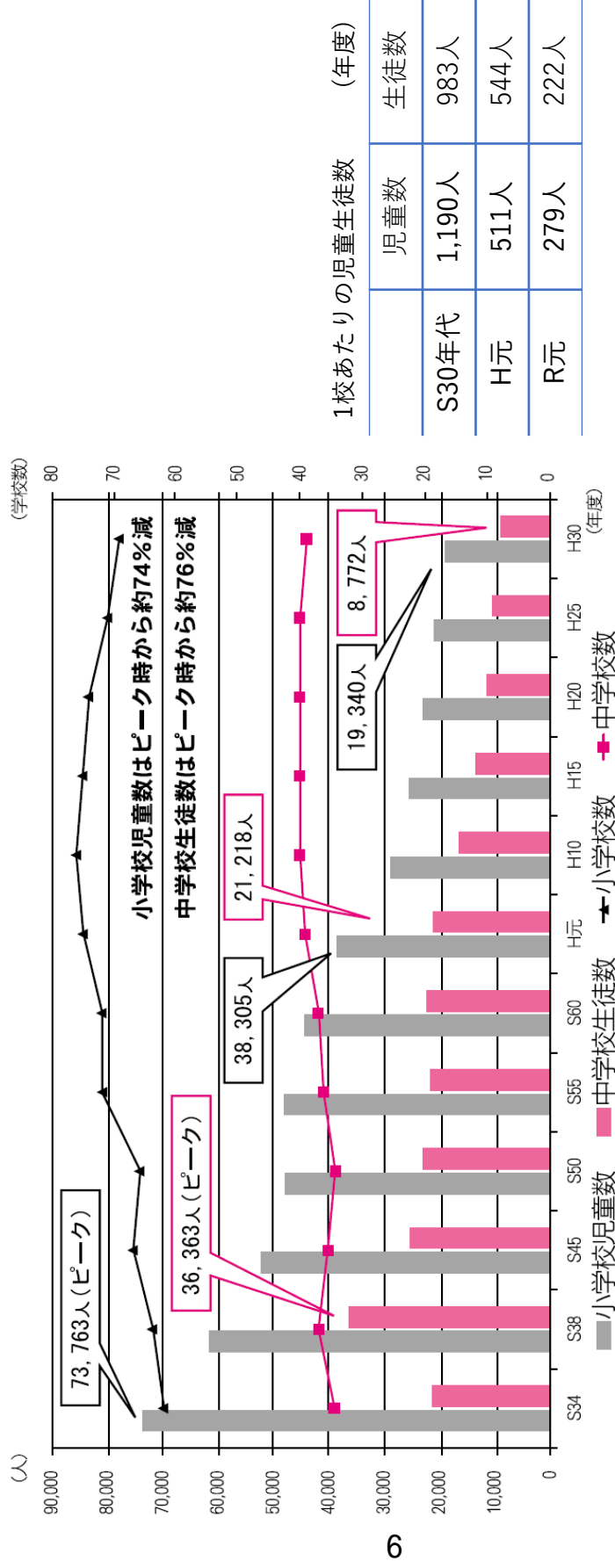
一方、横尾中学校の生徒数は、平成元年度の 736 人から今年度は 159 人へと大きく減少し、今後においても減少傾向が続くものと見込んでおります。

次代を担う子どもたちがグローバル化や I C T 化、少子高齢化の進展など、急激に変化する時代を生き抜き、活躍できるよう、望ましい学習集団を形成することができる学校規模の適正化と適正配置を行い、より良い教育環境を提供してまいりたいと考えております。

今後とも、「子どもたちにとって望ましい教育環境とは何か」という視点を中心に据えながら、保護者や地域の皆さまと一緒に考え、地域の実情もしっかりとお聞きしながら、ご理解をいただいたうえで進めてまいりたいと考えております。

学校統廃合について

1 | 長崎市の児童生徒数の推移



2 | 横尾中学校の生徒数の推移

	平成元年度		平成15年度		令和元年度		令和7年度	
	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数
横尾中	736	18	360	11	159	6	142	6

次代を担う**子どもたち**の **教育効果**をより高めるために

- 教育環境を整えることを目指します -



長崎市は、次代を担う子どもたちが今後、急激に「変化」する時代を生き抜き、活躍できるよう、子どもの自立を促すために学力を高め、他者と共生し、共に支え合うために社会性を育むことを教育目標の大きな柱としています。

そこで、義務教育の終点である「15の春」に、自分の夢に向かってスタートできる子どもを育み、その「めざす姿」を「**子どもが将来の夢や希望を自らの言葉で語り、実現に向けて努力している**」としています。

このような姿を実現するために、必要な教育環境について、地域や保護者の皆様と一緒に考え、十分な話し合いを行ってまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

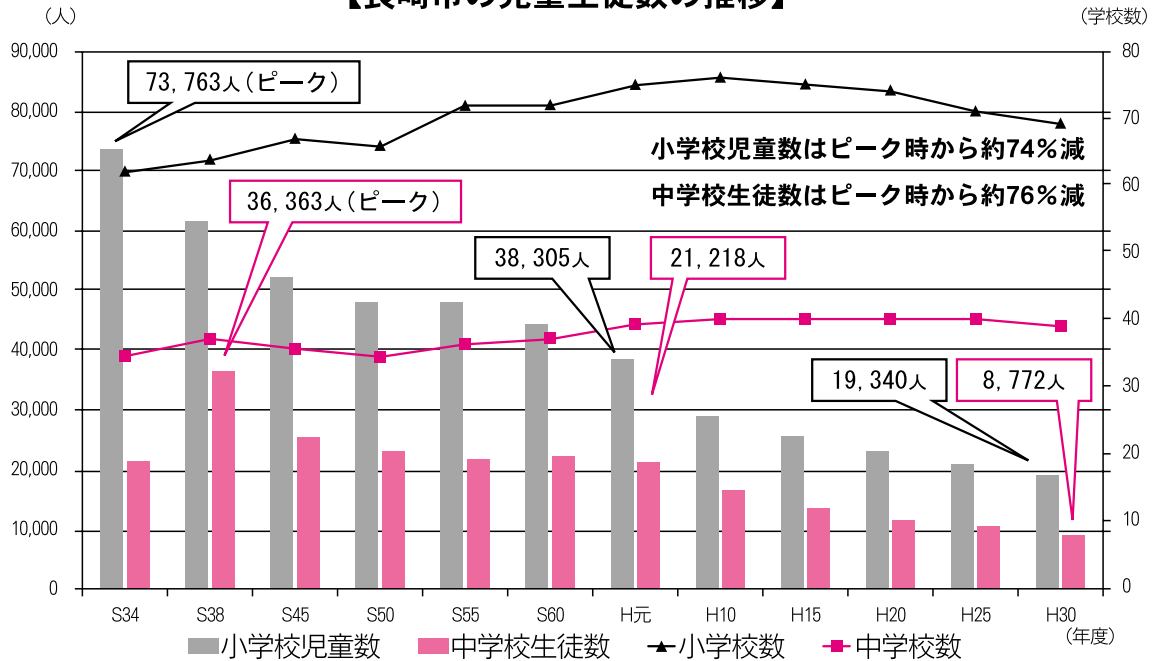
長崎市教育委員会

1 学校の現状 - 子どもの数が減少し、学校が小規模化しています -

全国的に少子化が進んでいる中で、長崎市の児童生徒数は、昭和30年代のピーク時から7割以上、平成元年度からは約半数減少しています。

その一方で、学校数は大きく変化していないことから、1校あたりの児童生徒数が大幅に減少し、多くの学校で小規模化が進んでいます。

【長崎市の児童生徒数の推移】



【長崎市の学校1校あたりの児童生徒数】

	児童数	生徒数
S30年代	1,190人	983人
H元	511人	544人
H30	284人	225人



ピークの時に比べて、1校あたりの児童生徒数もおよそ1/4に減っているんだね。

2 小規模校の教育活動

小規模校の教育活動の特徴として、次のようなメリット、デメリットが生じる可能性があります。

メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の目が届きやすく、細やかな指導を行うことができます。 ・授業や行事において、個人の活躍する機会が多くなります。 ・児童生徒相互の交流や理解が深まりやすくなります。 ・異学年間の交流が生まれやすくなります。 <p style="text-align: right;">など</p>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・切磋琢磨する機会が少ないため、競争心や向上心が育ちにくくなります。 ・卒業まで同じ学級で過ごすことで、人間関係が固定化されるおそれがあります。 ・中学校で全教科への教員が配置されない場合があります。 ・体育や音楽等の集団学習での活動が制限され、部活動の選択肢が少なくなります。 <p style="text-align: right;">など</p>

3 子どもたちが学びやすい望ましい学校規模

学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、子どもたちが集団の中で様々な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することで自らの考えを深め、協調性を育むことが重要です。

また、クラス替えにより新しい人間関係を築くことで、コミュニケーション能力を身に付けるとともに、社会の一員としての自覚を持って行動できるような教育活動が必要です。

とくに思春期を迎える中学校の3年間は、様々な人間関係を通して、集団のルールを学び、自らの個性や能力を伸ばすことが大切です。

このため長崎市では、子どもたちが集団生活の中で活気に満ちた活動ができるよう、望ましい学校規模を次のとおりとし、市内全域で学校規模の適正化と適正配置に取り組みます。



【長崎市が目指す望ましい学校規模】

小学校 12～18学級	【理由】 ・クラス替えができること ・学校全体の円滑な教育活動ができること ・同学年への複数の教員配置により共同研究ができること ・部活動の選択の幅が広がること ※中学校のみ ・全教科の教員配置ができること（9学級以上） ※中学校のみ
中学校 9～18学級	

4 優先的に検討を進める学校

児童生徒数が少なく、二つの学年が一つの学級で学ぶ複式学級を有する過小規模校（※1）と、施設の老朽化をふまえた小規模校（※2）について優先的に検討します。

（※1）**過小規模校**（小学校5学級以下、中学校2学級以下）

（※2）**小規模校**（小学校11学級以下、中学校8学級以下）



【取組の手法】

- ・通学区域の変更
- ・学校の統廃合

5 安全で安心な通学環境の確保

通学区域の変更や学校の統廃合により、通学距離・時間、通学路が変わることから、子どもたちの通学の負担や安全性に十分に配慮するとともに、保護者の経済的な負担の軽減を図ります。

【通学費補助について】（指定学校変更通学や区域外通学の場合は対象外）

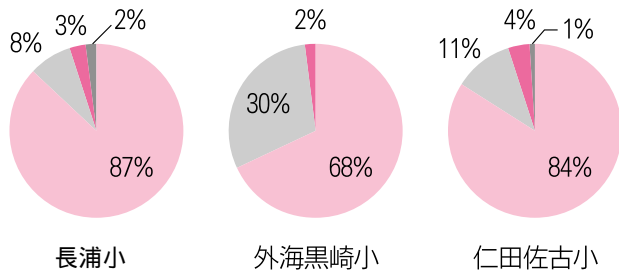
	小学校		中学校	
対象距離（片道）	2km以上4km未満	4km以上	3km以上6km未満	6km以上
補助の割合	運賃の1/2	運賃の全額	運賃の1/2	運賃の全額

(1) 統合が決定した学校（平成30年度以降）

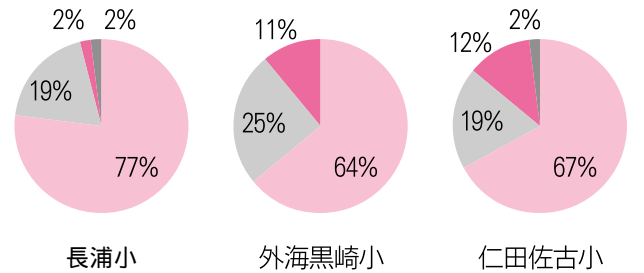
統合校	統合時期
尾戸小学校を長浦小学校へ統合	平成30年4月1日
式見中学校を小江原中学校へ統合	令和2年4月1日
川平小学校を西浦上小学校に統合	令和2年4月1日
江平中学校を山里中学校に統合	令和3年4月1日

(2) 統合から半年後の児童アンケートの結果

Q1 新しい学校には慣れましたか？



Q2 新しい学校は楽しくなりましたか？



- 1 慣れた ■ 2 まあまあ慣れた
 ■ 3 どちらでもない ■ 4 まだ慣れていない

- 1 楽しくなった ■ 2 まあまあ楽しくなった
 ■ 3 あまり変わらない ■ 4 楽しくなくなった

(3) 統合から半年後の子どもたちと保護者の声

【良かったこと】



新しい
友達が増えた



クラスの人数が増え、
授業が楽しくなり、
勉強する気が出てきた



先生が増え、
勉強がわかり
やすくなった



共に意見を交わし、
学び合い、成長しあ
えることが財産であ
ると改めて感じた

【課題】

人数が増
えて遊び
にくい



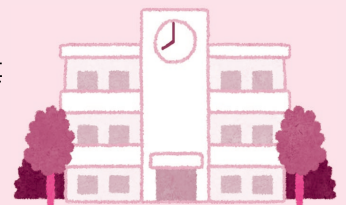
通学が
大変に
なった



保護者や地域の皆様との十分な話し合い

保護者や地域の皆様と「子どもたちにとって望ましい教育環境とは何か」という視点を中心にしなが、十分に話し合いを行ってまいります。

なお、学校は地域コミュニティの核として、防災や地域交流の場等の様々な機能を併せ持っており、地域にとっても大切な存在であるため、十分に配慮してまいります。



問い合わせ 長崎市教育委員会 適正配置推進室（市役所本館4階）

TEL：095-829-1170 FAX：095-829-1297 E-mail：tekiseihaichi@city.nagasaki.lg.jp

回答票

横尾
地区

【担当部課名】

市民生活部 自治振興課

要望内容

【団体名】 横尾西部自治会

【件名】 自治会の実態について

自治会は、高齢化が進む中、行政からの要請や会員の要望など、少ない役員で連携して活動している。

保健環境自治連合会の総会などで会員拡大の提起がなされるが、会員や未加入者が自治会への期待や魅力をどのように思っているのか真剣に向き合うことが大事と思う。

横尾4丁目は、65歳以上が51%を超えている。役員になると回覧や配り物ができない等、退会を真剣に考えている方々がいる。役員を譲り合って現状をクリアしているが限界がある。会員への負担がたいへん気がかりである。

固定観念を払拭して元気で楽しく協力し合って、安心して過ごせる自治会を皆さんと一緒に目指したい。

【回答内容】

- ① 可 能 2 一部可能 3 不 可 能 4 調査検討
5 幹 旋 6 その他 ()

日頃より、住みよいまちづくりのために、自治会活動に取り組んでいただき、この場を借りてお礼を申し上げます。

自治会は、地域コミュニティの核であり、その重要性は、今後ますます増していくものと考えておりますが、その一方で、自治会役員の高齢化やなり手不足の問題等が発生しており、長崎市としても重要な課題と認識しています。

これらの問題の要因としては、①自治会加入率が低下し、住民の高齢化が進むにつれ自治会活動の担い手や参加者が減少していること。②広く市民に対し、地域を支えている自治会の活動の周知が図られていないこと。③役員

の負担増といったものが考えられ、長崎市としても、さまざまな対応策を検討しているところです。

自治会加入率の低下に対する対応としては、近年増加する集合住宅については、集合住宅の建設情報を収集し、建設時から、該当区域の自治会に情報提供を行い連携し、施主に働きかけを行うなど、入居者の加入を進める取組みを実施しています。自治会未加入者の中には、自治会加入の方法がわからないと言われる方もいることから、ホームページからも自治会加入の手続きを行えるようにし、併せて、自治会加入促進チラシにはホームページにリンクしたQRコードを追加し、より簡単に自治会加入の手続きができるようにしております。加えて、昨年11月からは、市営住宅に加え、県営住宅の入居説明会にも職員が参加し、加入の案内を実施しており、既に横尾の県営住宅の加入申込もあっております。また、自治会においても、独自に自治会の取組みを紹介するチラシを作成し、未加入世帯にポスティングなどを実施しているところもあると伺っております。

次に、自治会長の皆様から、自治会に加入するメリットを未加入の方や広く会員の方に説明できないといったお声を頂戴しますが、自治会があることが、住みよい地域づくりにいかに寄与しているか周知に努めていく必要があると考えています。ごみステーションがきれいに保たれ、家にいても市をはじめとした各種機関からの広報や、近隣のお知らせなどが自宅に届くのは、地域に住む方の相互扶助によって成り立っており、そのつながりと助け合い

は、高齢化が進み、大規模な災害が増加しつつある現在、ますます重要になってくるということを、様々な手段や機会をとらえて周知をより一層図っていきます。今年度からはじめた取組みとして、若者に対するアプローチとして、自治会活動をニュース仕立てでまとめた動画を配信し、活動の周知を行っているところです。また、自治会の中でも、独自に広報誌を定期的に発行し、活動を積極的にアピールしているところもあります。市に提供のあった広報誌については、ホームページに掲載し閲覧できるようにしておりますが、自治会の方々に更に活用していただき、自治会の広報活動にお役立ていただけるよう周知に努めてまいります。

役員の負担軽減については、以前から自治会への発送物の減量化に努めてまいりましたが、将来を見据え、今年1月の一括発送文書から、スマートフォンによる閲覧が可能となるような対応を開始しました。ご利用によっては、より簡易に市からの一括発送文書を回覧することができます。併せて、今後とも発送物の減量化を進めます。また、運営上の困りごとを抱えている自治会に対しては、要請に応じて職員が自治会を訪問し、良い解決方法がないか一緒になって話し合っているところです。自治会においても役員の業務を他の会員に分担するなど、会長や1人の役員に業務が集中しないような取組みを推進したり、会費徴収の負担軽減のために、集合住宅については、建物を管理する不動産業者に会費納入のとりまとめを依頼したり、直接徴収することが難しい会員の方には、口座振替による会費納入を提案していると

ころもあると伺っております。

また、現在横尾地区においては、自治会をはじめとするさまざまな団体が連携し、横尾小学校区コミュニティ連絡協議会を設立し、各種取り組みをされておられます。協議会が実施するイベントや行事の開催、又は会報誌の発行等の活動が、自治会に加入されていない方だけでなく、地域にお住まいの皆さんに、自治会の大切さや自治会の活動に関心を持っていただく機会にもなっていると考えています。

今後とも、自治会に寄り添った取組みを継続し、自治会が高齢の会員に対し配慮しやすくなるような環境づくりや自治会が運営上の困りごとを気軽に相談できる雰囲気づくりなど、自治会活動の支援に努めてまいります。

令和元年度 自治会加入促進の取組み

インターネットからの自治会加入申込み

- ▶ 長崎市ホームページからも自治会の加入申込みができるようになりました。



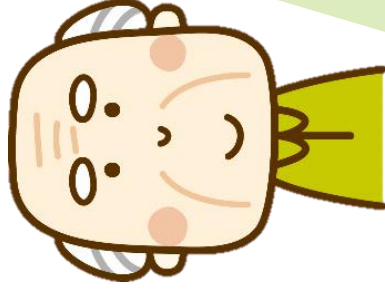
市民

ネット
申込み



市役所

申込み
送付



自治会

インターネットからの自治会加入申込み

- 自治会加入促進チラシにもQRコードを掲載しています。



表



裏



QRコード

自治会加入促進PR動画の作成

- ▶ 動画投稿サイト「YouTube」で加入促進動画を公開
- ▶ 「長崎市 自治会 動画」で検索できます。



自治会の負担軽減

- 市役所から自治会に発送している文書がスマートフォン等から閲覧できるようになりました。

【一括発送文書の閲覧手順】

自治会⇒会員

QRコード

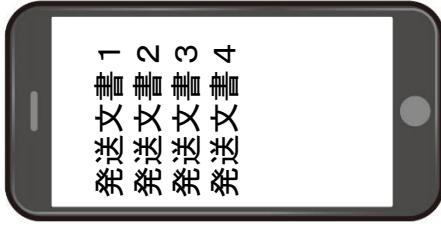


①QRコードの用紙を配布または掲示

自治会員



②スマートフォン等でQRコードを読み込む



③長崎市が発送した文書のホームページに移動

発送文書 1

④長崎市が発送した文書が表示



QRコード

回答票

横尾
地区

【担当部課名】

まちづくり部 都市計画課

要望
内容

【団体名】 横尾地区民生委員児童委員協議会

【件名】 運転免許証の返納に伴う公共交通（バス）の増便について

特に週末の土・日曜日は1時間に1本から2本の運行となり、免許証の返納が厳しい状況である。横尾から道ノ尾間などのコミュニティバスがあれば助かる。

【回答内容】

1 可能 2 一部可能 3 不可能 4 調査検討

⑤ 幹旋 6 その他（ ）

横尾地区における路線バスは、長崎バスにより上横尾と中央橋を結ぶ「上横尾線」が1時間当たり平均で平日が概ね20分間隔で、土日祝日が概ね30分間隔で運行されていますが、ご指摘のとおり平日と比較しますと土日祝日は運行便数が少ない状況です。

ご要望の路線バスの増便についてですが、バス事業者としては、利用実態等を踏まえ、需要に応じて運行便数やダイヤを決定しているところであり、引き続き、当該地区の実態等を調査し、増便やダイヤ調整ができる時間帯がないか検討したいとのことです。

いずれにしましても、路線バスを維持していくためには、まずは、地域の皆様が積極的にご利用いただくことが大事ですので、是非、利用促進に努めていただきますようお願いします。

なお、長崎市が事業主体となり運行しているコミュニティバスについては、あくまで路線バスを補完する形で運行していますので、既に運行されて

いる路線バスと競合するような運行は、事業者の経営にも影響を与えること
となり困難ですので、ご理解いただきますようお願いいたします。

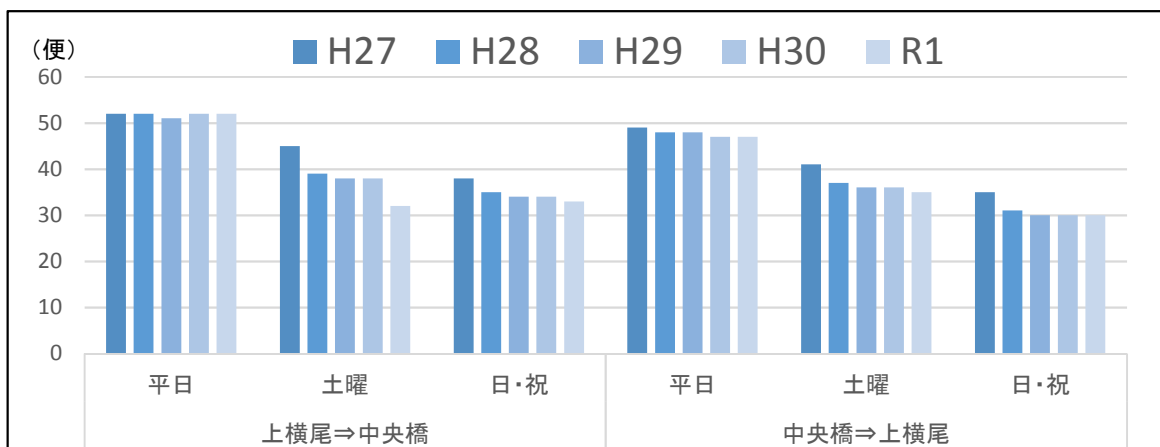
上横尾線の運行概要

1 過去5年間の運行便数推移

(単位:便)

運行系統	曜日	H27	H28	H29	H30	R01
上横尾⇒中央橋	平日	52	52 (0)	51 (▲1)	52 (0)	52 (0)
	土曜	45	39 (▲6)	38 (▲7)	38 (▲7)	32 (▲13)
	日・祝	38	35 (▲3)	34 (▲4)	34 (▲4)	33 (▲5)
中央橋⇒上横尾	平日	49	48 (▲1)	48 (▲1)	47 (▲2)	47 (▲2)
	土曜	41	37 (▲4)	36 (▲5)	36 (▲5)	35 (▲6)
	日・祝	35	31 (▲4)	30 (▲5)	30 (▲5)	30 (▲5)

()内はH27からの増減数



2 時間帯別の運行便数(R01)

(単位:便)

運行系統	曜日	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	時間平均
		台	台	台	台	台	台	台	台	台	台	台	台	台	台	台	台	台	台	
上横尾⇒中央橋	平日	1	4	6	4	5	4	4	3	3	2	3	4	3	3	2	1	-	-	3.3
	土曜	-	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	3	3	1	1	-	-	2.1
	日・祝	-	1	2	3	2	3	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2	-	-	2.2
中央橋⇒上横尾	平日	-	-	2	2	3	3	3	3	2	3	4	4	6	3	4	2	2	1	2.9
	土曜	-	1	1	2	2	1	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	1	2.1
	日・祝	-	-	1	2	1	2	1	2	2	2	2	3	3	3	3	1	2	-	2.0

3 運行間隔(R01)

運行系統	曜日	運行間隔
上横尾⇒中央橋	平日	16分
	土曜	26分
	日・祝	26分
中央橋⇒上横尾	平日	20分
	土曜	27分
	日・祝	29分

平日 : 20分
土曜 : 30分
日・祝 : 30分

し訳ございません。

改修工事の進め方として、団地内での住み替えを行いながら、建物を棟単位で空き家にしたうえでの改修を考えておりましたが、住みながらエレベータを設置する方法などもあることから、住んだままの改修ができないか検討を行っております。

改修工事の時期につきましては実施の方向性が明らかになってきた段階で、説明を行いたいと考えております。

また、現在、生じている空き家につきましては、横尾地区の皆様のまちづくりに対する取り組みと連動して、若い世代を呼び込む取り組みも含めて、積極的な活用に取り組んでまいりたいと考えております。

回答票

横尾
地区

【担当部課名】

こども部 子育て支援課

要望内容

【団体名】 横尾なづみ自治会

【件名】 子育て支援について

① 子どもに関する医療費の補助をもう少し何とかしてほしい。

【回答内容】

- 1 可能 2 一部可能 3 不可能 ④ 調査検討
5 斡旋 6 その他 ()

子ども医療費の助成は、医療費の一部を自治体が助成するもので、長崎市では、保護者の所得に制限を設けることなく、中学校卒業までの全ての子どもを対象に、医療機関ごとに1日につき800円、2日以上の利用でも同じ月内であれば1,600円までの負担で受診ができる仕組みになっています。

県内の多くの自治体が、一旦、医療機関で医療費の全額を支払い、後日、各自治体に助成額を請求する方法を採っていますが、長崎市では、中学生までの全ての子どもを対象に、助成後の自己負担額を支払うだけで済む仕組みにしています。(この仕組みを採用しているのは、県内21自治体のうち5自治体だけです。)

このように、長崎市の子どもたちが安心して医療を受けられるように、子育て家庭の経済的負担軽減に取り組んでいますが、子ども・子育て支援には様々な施策を展開していく必要がありますので、限られた財源の中で、どの施策を推進していくのが効果的であるかを十分見極めながら、子ども・子育て支援の充実に取り組んでまいります。

育児に関する様々な相談を受けておりますので、お気軽にご相談ください。

なお、子育て支援センターについては、現在、岩屋・滑石・横尾区域においては未設置となっておりますが、今後、地域のご意見をお聞きしながら速やかに設置できるよう、準備を進め、相談ができる場所を増やしてまいりたいと考えております。

回答票

横尾
地区

【担当部課名】

こども部 こども健康課
中央総合事務所 地域福祉課要望
内容

【団体名】 横尾なづみ自治会

【件名】 子育て支援について

③乳児用体重計を市の施設内に置いてほしい。

【回答内容】

- 1 可 能 2 一部可能 3 不 可 能 4 調査検討
5 斡 旋 ⑥ その他（ 健診や訪問等に対応 ）

長崎市では、乳児用体重計を市の施設内に設置しておりませんが、体重は子どもの成長を見る上で重要な要素であり、身近な会場で行っている4か月の集団健診や、医療機関に委託している7か月・10か月の個別健診の際に体重測定やお子さんの健康状態の確認を行っています。併せて、助産師や保健師による乳児訪問や、月1回、滑石地区ふれあいセンターで、第1子を対象とした育児学級を実施しており、その際にも体重を測っていますので、体重や育児などについて相談されたい方は、地区の保健師にお尋ねいただきますようお願いいたします。

幼児を対象とした遊具を設置することも考えられますので、これらを含めて協議、検討をさせていただきたいと考えています。

その解決のためには、空き家を放置せず活用を促す仕組みづくりが重要であり、市・地域・宅建業者などの関係者が協力して、検討していく必要があると考えています。

回答票

横尾
地区

【担当部課名】

理財部 資産経営室

要望
内容

【団体名】 横尾地区ふれあいセンター運営委員会

【件名】 横尾地区老人デイサービスセンター退去後の計画について

横尾地区ふれあいセンターと同居していた横尾地区老人デイサービスセンターが、1月22日に退去したが、退去後の活用はどのように計画されているのか。昨年「公共施設の将来のあり方を考える市民対話」に3回ほど参加し、いろいろな意見や要望を出したが、その後の動きが全くわからない。利用者にもデイサービスの後はどうなるのかとよく質問をされる。せめてどのように計画されているのかを示していただきたい。

【回答内容】

- ① 可 能 2 一部可能 3 不 可 能 4 調査検討
5 幹 旋 6 その他 ()

横尾地区老人デイサービスセンター退去後の空スペースについては、行政で活用できないか検討を進めてきました。

空きスペースの活用については、併設されている横尾地区ふれあいセンターの図書スペースが狭いことなどから、市民対話で「ふれあいセンターの拡充」といったご意見や、「地域コミュニティの事務所」などといったご意見など様々なお声をいただいていますので、今後、これらの意見も参考にしながら具体的な手続きを進めていきます。

いずれにしても、できる限り早く具体的な活用方法についてお示しできるよう取り組んでいきたいと考えています。